

私の好きな言葉

- 中学校での講演から -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

私は、東京にある経済同友会という経済団体に入会しております。出前寄席ではありませんが、経済同友会では、依頼を受けているいろいろな中学校の総合学習の時間に講師を派遣し、「生きるとは何か」などのテーマでお話をさせていただいております。

2. 私の好きな言葉 - 中学校での講演から -

(1) 私はその講師として、先週の土曜日・6月2日に東京都墨田区立錦糸中学校におじゃまし、3年2組の生徒42名を前にお話をさせていただきました。このような場合は大抵、中学校のほうからこのようなテーマ・内容で話してほしいというお話があります。その中の1つに「好きな言葉を紹介して下さい」というのがありましたので、私は3つ紹介させていただきました。

(2) 私の好きな言葉

1つは、「ブルドック魂」という言葉です。私は足利市立山辺中学校を卒業したのですが、2年生と3年生の時のクラス担任でありました岡田忠治先生が教えて下さった言葉です。ブルドックのように食い付いたら離すな、何事も一つのことを始めたら最後までやり抜けということを教えてくれた言葉です。非常に感銘を受けたので紹介させていただきました。

2つめは、「一所懸命」です。今は「一生懸命(一生涯を懸ける)」と書いて「いっしょうけんめい」と読みますが、昔は「一所懸命(一つの所で命を懸ける)」という書き方をして「いっしょけんめい」と読みました。これは中世からの言葉で、私はこちらのほうが好きです。私は足利市立山辺中学校を卒業した後、栃木県立足利高等学校に進学したのですが、その高校のマラソン大会の合い言葉が「一所懸命」でした。何かものごとをやるときには、一つの所で命を懸けるくらいの熱心さでやりなさいという意味です。1つめの「ブルドック魂」と組み合わせると、「食い付いたら離さず最後までやり抜け。やるときは一つの所で命を懸けるくらいの熱心さでやりなさい。」ということになると思います。この言葉も非常にためになりました。

3つめは、「一生勉強、一生青春」です。これは、一生涯勉強し続けると、一生涯青春で過ごせますよという意味だと私は思います。足利市に在住していらっしゃった書家の相田みつを先

生が書かれた言葉です。私も足利市に住んでいますが、相田先生は私の家の前をときどき散歩なさっていました。お話をしたことはあまりありませんが、颯爽と散歩なさっていた姿を今でも覚えています。その相田先生が書かれた「一生勉強、一生青春」はすばらしい言葉であると思いますので、紹介させていただきました。

やはり、勉強は一生涯、死の前日まで続けなければいけないと思います。勉強すればするほど、夢が達成できることも多くなりますし、自分自身も向上しますので、すがすがしく過ごすことができます。

(3)この他に、中学3年生にお話したことは、勉強するときには師匠を持たなければいけないということです。ものを習うには、よい先生が必要です。私は中学校時代に柔道をやっており、栃木県の県大会で優勝するようなチームにいました。最初は自分が強いのではないかと思っていたのですが、そうではありませんでした。柔道部の顧問の先生は椎名弘先生でしたが、椎名先生の指導する学校の柔道部はすべて県大会で優勝するからです。

ですから、教え方のすばらしい先生から教わると、どこのチームも県大会で優勝するくらいのレベルにまでは到達するということです。

師匠、つまり教えて下さる先生を選ぶことも大事です。ただ、巡り合わせもありますから、先生を選ぶということは難しくもあります。しかし、これぞと思う先生がいらっしゃったら、その先生に付いて一所懸命勉強することも大事だと思います。

(4)練習や勉強は非常に辛いものですから、先生だけよくてもうまくはいきません。よい先生に加えて、「励まし合う仲間」も必要です。よい先生を慕ってたくさんの仲間が集まり、その仲間たちが「先生の教えのすべては実行できないが、その一つでも頑張ってみよう」とお互いに励まし合う。このように「励まし合う仲間」をつくることも大事だと思いますので、中学3年生にお話しました。

(5)「ブルドック魂」という話、「一所懸命、一つの所で命を懸ける」という話、「一生勉強、一生青春」の話、「よい先生、師匠を選ぼう。よい先生や師匠に巡り合ったら付いていこう」という話、「一人では大変なので、励まし合う仲間をつくろう」という話などを墨田区立錦糸中学校3年2組の皆さんの前でお話させていただいたのですが、皆さんによくわかっていただけたような気がします。うれしく思いました。

3. おわりに

最後に、お知らせをさせていただきます。開倫塾の附属機関である開倫研究所は、「栃木県民の日」の協賛事業の一環として「第2回全国模擬授業大会」を開催いたします。模擬授業とは、生徒のいないところで、先生たちだけでどのような指導をしたらよい授業ができるかを考え、実践するものです。模擬試験と同様なものと考えればよいですね。

一人の先生が15分間の持ち時間で、授業の導入部分をどのように指導するか競い合います。これを、12日(火曜日)に足利市生涯学習センター、以前の足利市立相生小学校で午前11時から午後2時まで開催させていただきます。

先ほどもお話ししましたが、一人の先生の持ち時間を 15 分と制限し、学年・教科も特定して模擬授業を行います。そして、小学校 1 年から高校 3 年までの授業の導入部分を、それぞれの学年の児童・生徒がどのように理解するかを研究します。

教育改革の第一歩は教師改革で、先生方の力量アップが大事であると思い、このような形でやらせていただいております。

興味・関心のある方はぜひ、6 月 12 日午前 11 時から午後 2 時まで足利市生涯学習センターで開かれる「第 2 回全国模擬授業大会」にご参加いただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

[コメント]

年に何回か中学校や高校でお話させて頂いているが、自分の好きな言葉を紹介しながら自己紹介させて頂くと、興味をもって聞いて下さる方が多いことがわかった。少しでも「人生の成功」に役立てばと思い、お話させて頂いている。

- 2009 年 4 月 9 日林明夫記 -